

つながりたのしむ あそび集



光のあそび

空が晴れているか曇っているかというように、お天気を毎日気にしているものの、太陽の存在に特別関心を持つのは、運動会や園外保育など外の活動の日が多いのではないのでしょうか。太陽からもたらされる恵みは、お天気の良し悪しとともに、「光」と「暖かさ」があります。こうした要素を感覚的に感じてみましょう。

◎あそびの例

●太陽を探そう

目をつぶって、太陽のある方向を指で指してみましょう。

●影を感じる

- 1) 日なたから日陰をめざして、目をつぶってゆっくり歩きましょう。
どこで日陰に入ったか分かるでしょうか？
- 2) 次に、日陰から日なたに向かって歩いてみましょう。
どこで日なたに出たか分かるでしょうか？

●暖かい所を探そう

太陽が当たって暖かくなったところを探してみましょう。壁、窓、コンクリートや土の上、アスファルトの上、木や葉っぱなど色々なところに手を当ててみましょう。太陽の光をいっぱい受けている葉っぱは暖かいでしょうか？

●大地に寝てみましょう

園庭に大の字で寝て、太陽の光を体全体で受けとめてみましょう。空には何が見えるでしょうか？目をつぶるとどんな感じがしますか？



このあそびの対象

環境教育の視点

自然現象



存在



ねらい

- 光や影の存在を意識する。
- 光の力や不思議さを感じる。

年齢

3歳・4歳・5歳

季節

春・夏・秋・冬

場所

園庭・公園

実施例

年齢

4歳児

人数

9人

季節

秋

場所

園庭

●実施内容 大地に寝てみましょう

「まぶしい！」の声が大多数で、週初めでやや集中に欠ける子が多い日であったこともあり、何となくざわつき気味で担任の促しに集中しきれなかった様子で残念だったが、ちょうど雲が太陽を隠し、少し目を開けていられるような瞬間が現れたことで、「おひさまってまぶしいね、強いね」ということは年齢なりに共有・共感できて終わることができた。

●ふりかえり

このあそびは日陰と日なたの暖かさや日差しの量の差を感じ易い冬季にしてみるのも良いと思った。担任自身も、かねてより自然現象についてじっくりと思いを馳せたり感じてみたりする経験を持ちたいと考えていたが、今回の課題のねらいに充分近づけたかどうかは年齢の理解力などから自信は持てない。しかしその場で一定程度は「おひさまってまぶしくて強い」と感じることはできた。

風 の あ そ び

風が存在も太陽と同じく、日常的に接しているものの、特別意識する機会は少ないのではないのでしょうか。このため、風があそびの主役になることは少ないですが、もっと風を感じれば、あそびの幅を広げることができるかもしれません。

◎あそびの例

●風はどこから吹いてくる？

目をつぶって、風が吹いてくる方向を指で指してみましよう。みんな同じ方向になるかな？風は回っているかもしれません。全員が同じ方向を指さないかもしれません。自分で感じた方向を指してみましよう。

●風をつかまえよう

ビニールの袋（レジ袋）を広げて中に風を入れてつかまえてみましよう。
風の強い日は、袋の口に糸を付けると凧のように飛んでいきます。

●風とばし

葉っぱや花びら、紙を風に飛ばしてみましよう。だれのものが一番遠くへ、または高く飛んでいくのでしょうか？



このあそびの対象

環境教育の視点

自然現象



存在



ねらい

- 風存在を意識する。
- 風の力を感じる。

年齢

3歳・4歳・5歳

季節

春・夏・秋・冬

場所

園庭・公園

コラム 色々な風

風には、春一番や台風、北風など季節を象徴するものがあります。風は、吹く強さや季節、地方によって色々な呼び方があり、日本には約2,000もの風の名前があります。戸外へ出て、子どもたちとこうした季節の風を感じてみるのもいいですね。

薫風（くんぷう）…新緑の頃にそよそよと吹く、爽やかに薫るような風

疾風（はやて）…急に激しく吹き起り、しばしば強い雨や雹（ひょう）を伴う風

木枯らし…初冬の頃に、木の葉を吹き落として枯れ木のようにする冷たい強い風

空風（からっかぜ）…冬の晴れた日に吹く、冷たくて乾いた強い風

雨のあそび

地球上に水が存在したからこそ、私たちの生命が誕生しました。日頃、私たちが一番身近に接する自然の水は雨かもしれません。お天気を悪くするものとして見られがちな雨ですが、私たち人間も含めて生き物は、この雨のおかげで生きていけます。意識的に雨と接して、雨や水とのつながりを感じてみましょう。

◎あそびの例

●雨の音は何の音？

雨の音を聞いてみましょう。雨の音ってどんな音？言葉で表すことができるでしょうか？

●雨水を飲むのはだれ？

雨水を必要としているのはだれでしょうか？木や草、花の他には何があるでしょうか？園内を探してみましょう。

●水たまり観察会

水たまりは不思議な鏡。何が映って見えるでしょうか？みんなで覗きこんでみましょう。

●川をつくろう

園庭や公園に川を作ってみましょう。雨上がりにできた水たまりを使って川のように水の流れを作ってみましょう。近くの川をイメージしながら作ったり、2本、3本の川を作ったりして水の流れを楽しみましょう。葉っぱを舟のように流しても楽しいですね。

このあそびの対象

環境教育の視点

自然現象



存在



ねらい

- 雨にも色々な降り方があることに気づく。
- 雨水に支えられている自然に気づく。

年齢

3歳・4歳・5歳

季節

春・夏・秋・冬

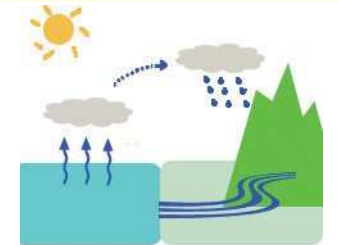
場所

園庭・公園



コラム 雨水はどこへ？～地球上の水は永久循環

雨水はどこにいくのでしょうか？雨水は地面に吸収されるか、下水から河川に流れて海にいき、蒸発して雲となって再び雨や雪などの形で私たちの所に戻ってきます。大事なことは地球上の水は永久に循環しているということ。今ある水は恐竜がいた頃と同じ水です。この水を現代の私たち人類が汚染してしまうと、その後の水はどうなるのでしょうか、考えてみましょう。



音のあそび

普段、私たちの周りには多くの音が存在しています。テレビの音、車の音など人工的な音が耳に入ってきやすい一方、風の音、鳥の声、木々のざわめきといった自然な音は、人工的な音の中に埋没しがちです。都会ではあまり意識することの少ない音ですが、周囲の状況を把握する手段として音は大切な存在なのです。

◎あそびの例

●音いくつ

目をつぶってまわりの音を聞いてみましょう。色々な音が聞こえてくるはずです。何種類の音が聞こえてくるか数えてみましょう。

●音あて

二つのものをぶつけて音を鳴らします。目をつぶって音をよく聞いて、何と何がぶつかった音があててみましょう。

●心地よい音

目をつぶって、まわりの音に耳を傾けてみましょう。聞こえてくる音で心地よい音はどんな音ですか？



コラム 音の意味

動物には、なぜ耳があるのでしょうか？それは「音」から危険を察知するためと、コミュニケーションのためです。草食動物は、どこから音がしても聞こえるよう、耳を動かすことができます。ウサギは天敵から身を守るために大きな耳をして周囲の音を聞いています。鳥たちは、縄張りを主張したり、求愛のために声でコミュニケーションをとるので、耳がなければそれもできません。人も危険察知は必ずしも視覚からだけではありません。耳を含めた五感を通じてなされます。

このあそびの対象

環境教育の視点

自然現象



存在



ねらい

- 聴覚に集中して音を意識する。
- 聞こえているまわりの音を楽しむ。

年齢

3歳・4歳・5歳

季節

春・夏・秋・冬

場所

園庭・公園

関連するあそび

サウンドピカソ …… P.22

季節のあそび

日本では、地球の自転軸の傾きと太陽の光の量との兼ね合いで、春、夏、秋、冬という季節が生まれます。都市の中で暮らしていると、四季がもたらす気象の変化や動植物の変化を感じる事が少なくなってしまう。子どもたちには季節を感じる活動を通して、経験的に季節に伴う自然の変化や人の生活の変化を感じて欲しいものです。

◎あそびの例

●旬のあそび・行事

春のお花見、夏の水あそび、秋のお月見、紅葉狩り、冬の雪あそび、氷あそびなど季節ごとの旬のあそびに取り組みましょう。

●地域の行事

地域などで、お祭りのお神輿やお囃子、獅子舞などに取り組む所も多くあります。こうした四季折々の地域の伝統行事に参加して、地域の人と一緒に季節を感じてみましょう。

●季節のコーナー

お部屋に、旬の自然を飾るコーナーをつかって季節感ある雰囲気を出してみましよう。園庭から季節の自然物を探し、お部屋の一角にきれいに並べましょう。自然物の名前や特徴などを書いて子どもたちに知らせると、興味も深まるでしょう。

このあそびの対象

環境教育の視点

自然現象



存在



ねらい

- 季節の旬を大切にする。
- 季節に合った行事に取り組む。

年齢

3歳・4歳・5歳

季節

春・夏・秋・冬

場所

園庭・公園



打ち水大作戦

打ち水は、夏の暑さ対策の習慣として昔から行われてきた、日本の伝統的な文化で、地面の温度を下げる効果があります。家の軒先や庭に水をまくことで、クーラーや扇風機なしでも快適に夏を過ごしてきました。また、水が蒸発するときに周りの熱を奪う「気化熱」の作用により持続的な効果も期待できます。園庭で打ち水を行い、暑い夏を乗り切りましょう。

◎準備

水、容器（バケツ、洗面器、じょうろ、ペットボトルなど）

※水の有効利用のためにも、使い終わったプールの水などを使いましょう。

◎あそびかた

- 1) 水と容器を用意します。
- 2) みんなで水をまきます。ひしゃくがなくても、手でバシャバシャ！
できるだけ広い範囲に水をまきましょう。
- 3) 温度計があれば、打ち水をする前と後で計測すると目で見て効果を感じることができます。



このあそびの対象

環境教育の視点

自然現象



存在



ねらい

- 夏の日差しの強さを感じる。
- 水をまくことで涼しさを感じる。
- 水（資源）の大切さに気づく。

年齢

3歳・4歳・5歳

季節

夏

場所

園庭

◎留意事項

- ・ 日中の日差しが強い時間帯に水をまいても、すぐに乾いてしまい効果が続きません。朝と夕方に行う方が、涼しさが持続し効果的です。
- ・ 上と同じ理由で、日なたより日陰に打ち水をする方が効果的です。
- ・ 熱中症に気をつけながら活動を行いましょう。

コラム ヒートアイランド現象

ヒートアイランド現象とは、都市の中心部の気温が郊外に比べて島状に高くなる現象であり、都市部特有の環境問題となっています。

地球温暖化により、日本も含めた世界全体で平均気温が上昇していますが、大都市では、地球温暖化の傾向に都市化の影響が加わり、気温の上昇は顕著になっているといえます。

ヒートアイランド現象の原因としては、（1）暑熱緩和に効果がある緑地が減少し、アスファルト道路やコンクリートの建物等の増加による地表面の人工化、（2）自動車、工場、建物などからの人工排熱の増加、（3）ビル等の密集による風通しの悪化などが挙げられます。